

第40回全県500歳野球大会 実施細則

- 1 選手の登録 チームの登録は、チーム代表者(部長)、監督、コーチ、主将、マネージャー、スコアラーを含む30人以内の選手等とし、ベンチに入れる人員も同様とする。ユニホームを着用しない登録者に関しては、年齢・性別を問わない。
- 2 ベンチ及び攻守 組み合わせ番号の若い番号のチームを一塁側とする。攻守は当該試合の球審の立会のもと、トスで攻守を決定する。打順表は、大会本部で配布(代表会議で全チームへ配布。二回戦以降は試合終了後勝利チームに配布する。)するものを使用することとし、第一試合においては試合開始30分前までに本部に提出し、照合を受けるものとする。第二試合以降は本部にチーム到着の旨を告げ、本部の指示を受けるものとする。なお、試合開始時刻になっても到着の連絡がないチームは原則として棄権とみなす。
- 3 試合形式
 - (1) 試合は5イニング制のトーナメント方式とする。
 - (2) 大会初日、2日目の試合は5イニング又は1時間30分までとし、同点の場合はジャンケンにより次試合の出場権を決する。(タイ・ブレイクは、大会3日目以降に適用する。)
 - (3) 競技場区画は投手～本塁間16m。塁間23m。両翼～本塁間75m、中堅～本塁間85m。バッターボックス区画やベース類は一般用のものを用品です。
 - (4) 投手、野手にこだわらず1度ゲームを退いても、何度でも出場出来ます。ただし、投手がイニングの途中で退いた場合、同イニングでの再登板は認められません。
 - (5) 55歳までの投手が投球出来るのは、アウトカウント9を取るまでとし、56歳以上の投手は制限がありません。ただし、タイ・ブレイクに至った場合は年齢制限を除外します。
 - (6) タイ・ブレイクは一死満塁で行い、打順は任意とし、走者は打者の逆順とする。(決勝戦も適用する。開始前に双方の監督、審判立会の上決定する。次回以降は前イニング終了後からの継続打順とする。)
 - (7) コールドゲームは適用しない。
 - (8) タイムの制限:「監督またはコーチが投手の所へ行く回数」、「守備側」、「攻撃側」が1試合中に要求出来るタイムは、それぞれ3回までとする。なお、タイブレーク時は2イニングに1回要求することが出来る。野手(捕手も含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督またはコーチが行けば双方1度として数え、逆の場合も同様とする。
 - (9) 試合の規則は「全県500歳野球大会特別ルールブック」を適用する。
- 4 競技上注意事項
 - (1) 大会使用球(ケンコーボールM号)及びロジンバックは大会本部で用意する。
 - (2) ユニホーム・装具等
ユニホームは同一チームと認識出来るように、全員同色・同形・同意匠のものを着用することとし、装具は公認野球規則に規定されているものとします。
※詳細については、「特別ルールブック」P1及びQ&Aを参照願います。
 - (3) 試合前のブルペン使用について
次試合の先発バッテリー1組に限り、3回終了時からブルペンに入って投球練習を行うことが出来る。

(4) シートノック及び練習会場等

シートノックは5分間とする。ただし、大会運営上、シートノックを行わずに試合を開始することもある。(大会初日、2日目、3日目はシートノック無しとする。)

試合前の練習場所等は、大会本部では準備しておりませんので、各チームで対応(予約等)して下さい。

(5) スコアシートの確認

対戦した両チームの代表者は、試合終了後、大会本部で作成したスコアシートの内容を確認しサインする。その際に、勝利チームへ個人カードの返還と次試合の打順表を交付する。

5 荒天時の対応

- (1) 雨天の場合でも、球場使用が可能な場合は原則試合を行う。
- (2) 途中荒天等による、当日の試合継続の可否については、試合を完了するよう努力しつつ、主催者が判断する。
- (3) 前項の問い合わせは、混乱を避けるため各チームの代表者が行い、周知する。

6 大会特別規定

この細則は、想定される競技運営上の決定事項であるが、想定されない事項が発生した場合は大会本部の決定を優先することとする。